

昭和女子大学附属昭和小学校

【理事長】坂東 眞理子

【校長】小泉 清裕

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1-7-57 TEL 03-3411-5114(直) <http://es.swu.ac.jp/>

【交通】東急田園都市線三軒茶屋駅下車、徒歩7分

「世の光となろう」をモットーに、
大学までの一貫教育を進める

理想的な人間形成のための土台づくり

昭和小学校の目指す人間像は、「目あてをさして進む人」「まごころを尽くす人」「からだを丈夫にする人」。理想的な人間形成のための土台を作り上げるべく、学校と家庭が一体となって、子どもたちの成長を促し、導いています。

人間的な強さと豊かな発想、温かな思いやりを

実質を尊んで、虚飾を排除する誠実な生活態度を身につける一方で、充実した社会生活を送ることができるような、堅実な能力を獲得することを教育の柱としています。たとえ困難に遭遇しても、決してくじけることのない人間的な強さを持ち、豊かな潤いのある発想のもと、他人に対しても温かな思いやりの持てる人格を育てます。

児童自らの力をはぐくむ教育

堅実な基礎能力の育成●中学・高校、そして大学へと進学する上で、小学校時代の学力は堅固なものでなくてはなりません。そのため、小学校の学習内容を早くに完結させ、もう一度これを繰り返す、さらにそれをまた繰り返すという努力が重ねられています。

自律学習の尊重●学力養成の責任は、学校における教師の指導に委ねられ、児童自らの努力で身につくよう学習が進められています。社会・理科・音楽・図工・体育・英語・家庭など専科制も多くとり入れ、児童の能力の伸長に努めています。

総合能力の開発●年間を通して全学年で行われる「総合学習」は、他に類を見ない昭和独自の学習方法です。復習と創造的学習が組み込まれた自主学習であるため、人間的な成長にも大きく寄与します。

上級学校に進むには

昭和中学校への進学については推薦制度があり、小学校長の推薦を受けた者は全員が進学できます。男子児童の進学については深い配慮がなされます。

日本の将来を担う昭和っ子

校長 小泉 清裕

学んだ知識を知恵として生かし、自立した個人として世界への飛躍をめざす、そんな子どもたちを育てて63年。全人教育の理想を掲げつつ、毎日の学習指導、生活指導を着実に進めています。

多様な価値観が交錯するなか、先行き不透明な時代をたくましく、心豊かに生き抜く子どもたちであってほしい。ご両親と私たちとの共通の願いを、力と心を合わせてぜひ実現したいものです。



沿革

大正9年、日本女子高等学院が発足。学制改革を経て、昭和女子大学、同短期大学、同附属高等学校および中学校となる。わが国の女子教育において、学徳兼備の校風を以て知られる。昭和26年には幼稚園、同28年には小学校を設立し、教育体系を一本化。その後大学院（修士・博士課程）、アメリカ・ボストンには初の海外校として昭和ボストン、生涯教育の場としてオープン・カレッジを設立。平成14年、英語教育で「読売教育賞」受賞。

2017年度募集要項

募集人員：男女105人（内部進学者を含む）
出願期間：[自己推薦]9月20日・21日（小学校受付窓口）[一般]10月1日～10月5日（郵送のみ/消印有効）
選考料：20,000円
選考日：[自己推薦]11月1日※8月27日の体験入学当日に書類を配布
[一般]11月2日・3日のいずれか
選考内容：口頭試問、運動、行動観察、保護者面接
合格発表：[自己推薦]11月1日
[一般]11月4日

【かかる費用（2016年度参考）】

入学金：250,000円
授業料：516,000円（年間）
施設設備金：75,600円（年間）
教材費：19,200円（年間）
給食費・実費（月額約5,800円、H27年度実績）
※上記のほか、入学に関する寄附等は一切不要

併設中学進学状況

◆昭和女子大学附属昭和中学校（女子81人）
※成績等が基準に達した者は全員が進学可能

データパック

◆児童数648人/教員数39人
◆16年度応募者数：250人
◆合格者数：144人（昭和女子大学附属昭和幼稚園からの内部進学者を含む）

【併設校】

○昭和女子大学附属昭和こども園（H28年度から）
○昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校
○昭和女子大学
○昭和女子大学大学院